学校だより

平成 28（2016）年　5 月 14 日
カンタベリー日本語補習校
校長　古川　明

《 補習校の取り巻く教育環境、・・・日本語の学習言語を育てる① 》

あいさつ運動（4/30）の様子　▲正門　▼裏門

本校は、1998 年に日本人会が設立母体となって開校し、本年で 19 年目を迎えています。文部科学省は補習授業校について、「海外に数年間在留して現地校や国際学校に通学する日本人の子どもに対し、土曜日や放課後などを利用して、再び日本に帰国し国内の学校に編入した際にスムーズに適応できるよう、日本国内の小学校又は中学校の一部の教科について、基礎基本を習得するための授業を国内で使用する教科書を用いて、日本語により行うとともに、日本の学校の学習習慣、生活習慣などを指導し、併せて日本の学校文化を体験させることを目的とする教育施設」、と明記しています。本校はその目的を推進するため、教育内容の改善と充実に向け、地道な努力を重ねてきました。

特に、文部科学省から教員（校長）が派遣されるようになると、日々の授業改善と教員の資質向上が重要視されることになりました。それに伴い、学校経営方針、校内研究計画、年間指導計画、評価計画、行事計画、児童生徒指導計画等、補習校が組織体としての機能を果たすことが求められるようになりました。組織的教育活動は、計画－実践－評価－改善の循環の中で、継続と改善が大変重視されます。学習指導に当っている教員は、子どもたちの確かな学力を身に付けさせるため、学習展開の工夫を図り、分かる授業と学び合う授業を追究し、絶えず授業改善を求められています。

一方、学習者である子どもたちは、学齢に基づいた教科書の学習内容を習得し、知識や技能を活用しながら、様々な学習課題を探求できる力が求められています。補習校に通う子どもたちは、平日は現地校で英語による学習が行われ、英語力の習得に大きな力を割くことが求められています。そして、補習校に通いながら日本語力の維持と向上をめざす子どもたちは、日本語が少数言語のため、家庭内の協力のもと、小 4 までは日本語を最優先で使用・活用できる家庭環境が求められています。現地校での学びが進むのに伴い、子どもたちは膨大な英語の学習言語を必死に吸収しようと努めます。日本語を学ぶ機会が閉ざされていた場合、瞬く間に、子どもたちの日本語の語彙は駆逐され、日本語で話すことが面倒になり、日本語を用いての意思疎通が不可能になります。10 歳までに習得された日本語は、子どもたちにとって日本語を母語とする基盤が形成されることになります。少なくとも小 4 までは、日本語で「話す・聞く」「書く」「読む」の学習を毎日重ね、日本語の語彙を少しでも多く獲得し学習言語を充実させることが、日本語での思考を発達させることになります。

江口俊昭氏（前ロンドン補習授業校校長）は、「学習するための日本語を育てる」『海外子女教育』P.15~P.24、2016 年 4 月号で、インタビューに答えています。その内容を、今回と次回の二回に分けて紹介します。

・「学習言語は、日常生活で使う「生活言語」を土台として積み上がるものです。充実した生活言語の蓄積があってこそ、学習言語も豊かに育てることができるといわれています。」

・「学習言語は、思考のための大切なツールです。新しい知識と出会い、刺激を受け、行間を読んで理解し、深く学ぶためのものです。」

・「現地校に通う子どもたちは、日々の生活の中で、英語の生活言語と学習言語を発達させています。しかし、英語が

充実する分、日本語、特に学習言語に触れる機会が、さらに少なくなってしまいます。日本語で学習言語を習得する環境を、意識的につくりだす必要があります。その柱の一つになっているのが、日本の教科書を日本語で学ぶ補習授業校です。」

・「もともとしっかりした日本語なり英語なりを持っていると、二つの言語が順調に育ち、影響し合って高め合います。どちらの言語でも、思考回路を自在に動かすようになれます。これが『理想的な学習モデル』です。」

・「高い語学力と思考力は旺盛な好奇心を喚起し、たくさんの情報量を文字や耳から得られるようになります。どちらの言葉からもインプットできるので、知識のすそ野も大きく広がっていきます。また、二つの言語で異なる世界観を実感できるので、物事を複眼的に見ることができるようになります。

・「小１のクラスで、『5 と 3 で合わせて 8』（合成）は理解して正答できるのに、『では、8 は、5 といくつ』（分解）と聞かれて、いつまでもわからなかった子がいました。ちょっとした言葉の言い換えからの柔軟な思考の変換ができなくなってしまう。みんな、生活言語には全く問題のない子どもたちだったのです。」

・「最初は普通のじゃんけんをして、次に『先生はグーを出すからね』と宣言をしました。それでも勝てない。これは、ジャンケンのルールは分かっているのに『パーを出せば勝てる』という思考処理が日本語でできていないということです。」

・「小学校高学年以降に海外に出た場合は、それまでに学習言語も含めてある程度日本語の蓄積があるので、忘れるスピードは鈍化します。それでも、本来言語は年齢と共に成長していくものです。渡航時の日本語レベルを維持していても、相対的には低下しているということに留意して欲しいです。」

※次回は、学習言語を育てるための取り組みについて、紹介します。
※『海外子女教育』は、補習校図書室で閲覧可能です。

お知らせ　授業参観・年次報告会

授業参観は、6 月 4 日（土）1 校時（13:15～14:00）、各教室で行われます。その後、2 校時（14:05～14:50）、ホールで年次報告会が行われます。保護者の皆様、万障お繰り合わせの上ご出席いただきますようお願い申し上げます。

なお、各教室では、児童・生徒が学習に取り組んでおります。教室周辺等は静粛にお願いします。また、教室内でカメラ等の撮影はご遠慮ください。ご協力をお願いいたします。

《 学校評価アンケートを実施します 》

【学校評価の目的】

・学校の教育活動は計画・実行・評価が連続性の中で組織的に行われており、指導の改善に積極的に生かすため。

・教育目標、教育計画等の実施状況や課題について保護者、日本人コミュニティーの願いや意見を学校の教育活動に生かし相互の連携・協力を促進するため。

【実施時期と方法】

・5 月 21 日（土）～5 月 28 日（土）の間で行います。締め切りは 5 月 28 日（土）です。

・補習校メールを各家庭に一斉配信しますので、オンラインフォームよりご回答ください。

《 お願い 》

◎ 借用校 Ilam School の備品や作品には手を触れないよう、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

◎ 一時帰国等により長期休業時の宿題を直接お渡しすることができない場合、補習校からご指定の住所へ郵送いたします。あらかじめ A4 サイズの入る封筒に切手（$3.60）を貼り、郵送先をご記入のうえ、担任もしくは事務所へご提出ください。

◎ 学校生活において配慮が必要な既往症をお持ちの場合、担任または事務局までご連絡ください。

◎ 補習校では、図書の寄付を随時受け付けております。絵本や小説等、ご不要となった本がありましたら、事務所にお持ちください。（火～金：10 時～14 時、土：9 時 30 分～17 時 30 分）

ご不明な点がありましたら、事務局へお問い合わせください。（03-348-9512、cjss1998@gmail.com）